

K O Σ M O Σ

Vol. 11, No. 3 (No.35)1977. 1. 25

今後の図書館への期待

平 野 耿

工学部の分館、白山の本館と本学図書館が相次いで新築され、面目を一新してから既に数年がたつ。当時その建築に関わりを持った学内者のひとりとして、その後の図書館の運営にやはり無関心ではられない。素人ながら五年に及ぶ分館長時代に、度重なる研修会や見学会に参加し、館員諸兄姉の教示も得て、いくらか図書館についての認識と理解を深め得たとは思っているが、再び教育と研究の仕事に戻った今、一利用者として館の在り方を見る時、いろいろな不満と不安を持たざるをえない。そのひとつは、飛躍的に改善されたとはいえ、研究者に対するレファレンス・サービスの消極さである。もちろん人手不足でそこ迄はともという意見もあろう。しかし私の知っているオクス・フォード大学図書館の女性司書は、彼女の担当している十数名の研究者の著作と論文を絶えず読破し、同じ領域の内外の研究文献について常に最新の情報を提供することを職務としている。このように、本来ライブラリアンは専門的研究職でなければならない。本学の教育や研究の発展のためにも、館員諸兄姉の御協力をぜひともお願いしたいものである。

次に資料管理の方法についての不安を述べておきたい。かつて私も、一部研究者による資料の独占と紛失を防ぐために、図書の集中管理方式を主張した時期があった。だがかりに電動書架を備えた広大な書庫であっても、いつか収納に限度がくる。資料のマイクロ化も再使用の不便さをはじめ制約が多い。ロンドンの有名な公文書館(Public Record Office)ですら遂に手狭になって、郊外に移転することになった由。どこの国でも図書の増加と施設の問題には頭を悩ませている。このへんで大学図書館も、西独でやっているような中央館と学科図書室との合理的な分散管理方式を再検討するとともに、地域の数大学にまたがる分担収書システムを真剣に考える時期ではないだろうか。学生用の一般書はともかく、場所をとる専門雑誌類やごく特殊な研究書を全部の大学図書館がかかえずとも、インターローン・システムと複写サービスによって、書庫問題はかなり改善されると思うのだがどんなものであろう。

(工学部教授、前分館長)

巻頭言	1
図書館業務報告	2~5
新着寄贈本紹介	6
工学部図書館近況	6
新刊図書案内	7
参考図書解題	8
図書(雑誌)の購入 から閲覧まで	9
日誌	10

東洋大学図書館業務報告

(昭和50年度学長報告より抜粋)

〔I〕 白 山

1. 学部別・図書館図書費・予算及び決算 (単位：円)

	予 算	決 算	備 考
文経経法社教短各一継学二指逐視紛予助大	6,384,000	6,449,310	含大学院
学 学 部	3,100,000	3,203,722	
学 学 部	4,002,000	4,118,150	含大学院
学 学 部	4,007,000	3,044,809	含大学院
学 学 部	4,107,000	4,197,900	含大学院
学 学 部	3,100,000	3,082,881	
学 学 部	2,700,000	2,767,097	
学 学 部	5,700,000	5,106,570	
学 学 部	7,000,000	7,004,429	
学 学 部	7,000,000	7,325,662	
学 学 部	1,500,000	1,658,515	
学 学 部	2,500,000	2,424,789	
学 学 部	1,200,000	1,104,455	
学 学 部	9,205,500	10,229,592	
学 学 部	1,000,000	1,030,770	
学 学 部	1,000,000	894,560	
学 学 部	700,000	612,810	
学 学 部	7,794,500	7,794,500	
学 学 部	12,000,000	11,949,316	経済、公法、中哲、図書館学
合 計	84,000,000	83,999,837	

2. 年間受入冊数

	購 入	寄 贈	製 本	合 計
和 書	6,882	22,456	725	30,063
洋 書	4,981	89	268	5,338
合 計	11,863	22,545	993	35,401

※ 和書の寄贈の欄に従来、東京都より貸与されていた「哲学堂文庫」21,558冊を含む。

3. 年間部門別整理冊数

	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	学 文	合 計
和 書	1,585	718	792	2,220	288	152	423	379	232	1,346		8,135
洋 書	565	517	260	2,431	129	121	230	36	230	517		5,036
合 計	2,150	1,235	1,052	4,651	417	273	653	415	462	1,863		13,171

4. 雑誌・新聞・所蔵数

	雑 誌 (種)	新 聞
購 入	和 洋 438 486	和 洋 11 16
寄 交 贈 換	和 洋 1,333 50	和 洋 19 0
合 計	2,307	46

5. 館内閲覧統計

人・冊 月	開架図書		閉架図書		合計	
	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数
4	615	509	498	311	1,113	820
5	1,861	1,427	1,184	821	3,045	2,248
6	2,280	1,629	1,459	913	3,739	2,542
7	1,572	983	1,390	730	2,962	1,713
8	1,050	821	1,061	798	2,111	1,619
9	1,819	903	1,585	791	3,404	1,694
10	2,755	2,491	1,706	803	4,461	3,294
11	1,440	895	1,190	581	2,630	1,476
12	1,824	1,169	1,311	666	3,135	1,835
1	7,745	4,686	1,136	716	8,881	5,402
2	3,094	1,730	580	251	3,674	1,921
3	735	513	128	85	863	598
年間合計	26,790	17,756	13,228	7,466	40,018	25,222

6. 館外貸出統計

月	開架図書		指定図書		閉架図書		合計	
	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数	冊数	利用者数
4	2,231	1,930	120	132	535	348	2,886	2,410
5	4,037	3,545	515	413	732	552	5,284	4,510
6	4,215	3,614	435	602	860	672	5,510	4,888
7	3,274	2,833	386	311	1,027	741	4,687	3,885
8	774	603	86	55	324	227	1,184	885
9	2,937	2,444	282	291	769	592	3,988	3,327
10	4,174	3,711	430	395	1,083	876	5,687	4,982
11	3,143	2,638	378	360	652	526	4,173	3,524
12	3,894	3,188	526	440	765	503	5,185	4,131
1	1,916	1,637	310	264	233	171	2,459	2,072
2								
3								
合計	30,595	26,143	3,468	3,263	6,980	5,208	41,043	34,614

{(注) 開架図書照合のため閉館。}

7. 参考業務

質問件数		4,858	利用者数		4,858
内容	書誌作成	0	内容	学生	4,542
	文献調査	1,340		教員	131
	文献所在調査	330		職員	128
	事実調査	352		学外者	57
	書誌的事項その他	0			

8. 蔵書構成 (旧分類, 哲学堂文庫, 未分類を含まない)

		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	合計
冊数	和書	25,152	21,960	22,166	34,563	5,974	5,059	6,396	3,724	4,639	17,160	146,793
	洋書	4,266	8,119	4,712	32,322	3,022	3,027	3,868	648	2,736	8,963	71,683
合計		29,418	30,079	26,878	66,885	8,996	8,086	10,264	4,372	7,375	26,123	218,476

9. 視聴覚室資料受入数

	受入総点数	50年受入数	整理状況
レコード	1,160	425	50年度分の資料はすべて仮目録カードで処理
テープ	682	95	
スライド	29	0	

10. 視聴覚室利用状況

利用者数 (定席18 補助席7)

		4・5月	6月	7月	9・10月	11月	12月	1月	合計
コンサート	入室日数	21	18	14	21	11	11	13	109
	入室数	345	229	186	262	161	156	168	1,507
	1日平均	16.4	12.7	13	12.4	14.6	14.1	13.6	13.8
個人利用	入室日数	15	19	7	28	11	12	13	105
	1日平均	12.8	11.5	15.2	11.5	11.8	11	8.1	11.1
	音楽系	125	163	77	258	107	89	103	922
	語学系	22	28	12	28	3	0	0	93
	F M 放送	27	21	9	26	5	1	2	91
	ノン・ミュージック	11	1	4	6	4	7	0	33
	持込 その他(スライド他)	2 7	0 6	1 4	0 4	0 3	0 1	0 0	3 25
計		194	219	107	322	122	98	105	1,167
その他	団体利用	3	1	0	3	0	1	1	9
	貸出件数	—	—	—	17	11	7	0	35
	映写会回数	2	1	—	—	1	1	—	5
	映写会観覧者数	254	36	—	—	96	41	—	427

- 注: 1. コンサート入室者数は, 出入がはげしい為に概数で示した (月～金: 12～13時)
 2. 個人利用は4台のレコードプレイヤーに集中 (月～金: 14～16時)
 3. 個人利用時の資料持込は, 資料増加に伴い, 10月より制限
 4. 貸出は音楽以外の資料 (語学テープ, 記録・文学レコード等) を対象として10月から実施
 5. 映写会は毎月1回の割合 (但し7月と1月を除く) で第3閲覧室を使用し定例化

〔Ⅱ〕 工 学 部

1. 予算及び決算 (単位：円)

当 初 予 算	15,000,000
決 算	18,536,111

2. 年間図書受入冊数

	和 書	洋 書	合 計
図 書 費	1,614	397	2,011
実 験 実 習 費	195	81	276
電 算 室	3	16	19
寄 贈	58	9	67
帳 外	5	2	7
製 本 雑 誌	435	837	1,272
合 計	2,310	1,342	3,652

3. 年間雑誌受入冊数 (種)

		和 雑 誌	洋 雑 誌	合 計
購 入	図 書 費	243	381	624
	研 究 費	7	19	26
寄 贈		268	0	268
合 計		518	400	918

4. 年間貸出冊数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
学 生	628	1,326	1,497	1,160	40	728	1,366	940	1,189	815	1,076	21	10,786
教 職 員	88	146	169	218	33	296	169	46	53	81	157	114	1,570

5. 年間学科別貸出冊数 (学生)

学 科	機 械	電 気	応 化	土 木	建 築	大 学 院	白 山	合 計
冊 数	2,417	4,357	1,295	1,462	914	332	9	10,786

6. 土曜日延長時の平均閲覧者数

時 間	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00
人 数	40.7	27.5	25.4	20.1	9.8

——故風岡浩教授(経済学部)の蔵書,「風岡文庫」 として図書館に収蔵される——

「風岡文庫」は本学経済学部教授, 故風岡浩先生旧蔵のすべての蔵書が, ご遺族の厚意によって, 昨年9月東洋大学図書館に寄贈され, 「風岡文庫」として収蔵されたものである。

先生は東京大学法学部卒業後(昭和24年), 時事通信社, 世界経済研究所の研究員を経て, 昭和38年4月, 本学経済学部専任講師として就任し, 以来「低開発国経済論」の講義を持たれていた。

発展途上国の経済論は, 世界の新しい政治経済の動きの中で無視できない経済学の重要な一分野である。しかし, 先生は昨年8月30日不幸にして突如急逝せられ, 「低開発経済構造の特質」(東洋大学経済論集第1号, 1975年9月)が先生最後の著作となった。

「風岡文庫」は数量面から見ると, 和書1403冊, 洋書461冊, 雑誌28種, (うち外国雑誌2種)である。ただし雑誌に関しては部分的で, 端本が

多く, 数年をカバーするのは5種である。

文庫の内容は, 社会科学, 経済学, 民族問題, 植民地問題, 南北問題等の図書, ならびにアジア・アフリカ諸国にわたる発展途上国, とりわけインドの社会, 政治, 経済に関する先生の専門領域の図書が文庫の大半をしめている。又これ等の蔵書群は第二次大戦以降に出版された図書であって, 洋書の場合英語, ドイツ語, ロシア語におよび多くはマルクス主義の歴史観に立った専門書である。こんご斯界に寄与するところ大なるものと期待している。

図書館では現在, 「寄贈風岡文庫」の印を押印し受入業務を完了し, 整理を急いでいるが, 今後「風岡文庫」と称して永く本学図書館に保存し, 広く学術の研究に資し, ご遺族のご芳志に応えることを期するものである。

(小島記)

工学部図書館近況

1. 書庫拡張のおしらせ

現在の分館は建築以来6年になりますが, 3年前から書庫の狭隘に悩まされてきました。それは当初予算の関係で書庫の一部が内装仕上げ出来ずにピロティーのようにしてあったことと, 分館建築後6ヶ月程して急に, 工学部に電算機が入る事になり設置場所に困った揚句, この書庫予定部分に2年間だけ間借することになったからです。

しかし財政難もあって電算機室はなかなかつくられず, 一方, 書架はパンクして蔵書の一部は工学部内の各所に分散保管するようになりました。

ようやく今年5月に6号館が完成して電算機が移転し, 書庫用として分館に返還されました。直ちに書架の設計, 着工を期待したのですが学生要求の強かった大閲覧室の冷房装置が優先し, 書架は年度末まで延期となりました。12月に入ってよ

うやく書架見積となり約180m²の書庫に一部電動式移動書架を含む43,000冊収容の書架が設置されることになりました。3月に図書の移動を行い, 4月から使用の予定です。

現在の蔵書増加量からみて今後, 8年間位の資料を収容できる見込です。電動書架の取扱は必ず館員の指示に従って下さい。

2. 開館時間延長時の利用状況

KOΣMOΣ11巻2号で報告した分館の開館時間延長は, 開始以来8ヶ月を経過したが利用状況は一向に変わらず, 平均毎回11名位の利用しかない。夏期休暇直前と9月の試験前は20人程の利用があったが, 9月中旬からは又ずっと下って平均6~7人となってしまいました。

冬期の暖房も4時半で止るので一層利用者は減少しそうです。利用者が極めて少ないと開館時間, 方法の変更も検討する必要があります。積極的に利用される事を望みます。

長澤規矩也編 和刻本漢籍分類目録

長沢博士は、和刻本漢籍の刊行に関係し、自らもその解題を手掛けているが、同時に、『図書学参考図録』『漢籍整理法』『図解書誌学入門』などの書誌学、目録学関係の著書をも刊行している。

元来、図書館に於て和漢古書を整理するに當つて国書に就いては、曲りなりにも『国書総目録』があり、全面的信頼は困難ではあるが、利用は可能である。唐本の漢籍に就いては、内閣文庫、静嘉堂などの主要収蔵機関の書目を利用する事によって、かなり正確な情報を得る事が出来る。然るにこの種の図書は唐本に比して、その価値は低いものとされ、最終的典拠にはなし得ないと言われた。其様な関係もあって信頼すべき書目が存在せず、不便を来していたのが現状である。博士はそこに眼を付けられてか大西寛、小林花子、阿部隆一などの諸氏の協力を得て、十有余年の歳月を閲し、全国の収蔵状況を博搜し、現物に当り、刊、印、修の区別をも確かめ、ここに完成となったのである。精度に於て『国書総目録』などその比ではあるまい。まさに、干天に慈雨の感を禁じ得ないのである。其様な学的良心の結果にも拘らず、この種の業績に万全を期する事は不可能である。その為もあり、博士はその序に「誤脱もまだ多いと考へる、特に後進の諸氏の忌憚のない示教を俟つ」と述べている。それに甘え、管見に入りたるものの一部に就き一言することにした。

二、史部、11地理類(十) 外記(84頁)に
大唐西域記一二卷 唐釋玄奘奉勅譯辨機編 刊
返送 未見 大六
と著録している。確かに各版本の卷頭に玄奘の奉勅訳と記しているのは事実である。しかし、足立喜六氏の『大唐西域記の研究』に「新疆・土耳其斯坦・阿富汗斯坦及び全印度を旅行し、巴密爾山嶽を横断して長安に帰還した体験的記録である。(略)而して帰還後に之れを太宗に進献したもので所謂奉勅の撰述である」とある。従つて、「奉勅譯」とするか、「奉勅譯[撰]」と改めるべきではないか。

四、集部、2別集類(五)明(183頁)に
唐白虎集 明唐寅撰……とあるが、『唐伯虎集』の誤りではないか、原物を見ていないので確たる事は言えないが、若し其様にあるとすれば『唐伯虎集』と著録すべきである。次に同類(六)清(186頁)に

(牧齋)初學集詩註二〇卷(牧齋)有學集詩註一四卷 清錢曾撰 朱梅校 明治一六刊(木活擁書城)大二六

と著録している。『清代七百名人伝』第1編に「錢謙益字は受之、牧齋と号す。江南常熟の人。明の万曆三十八年、一甲三名進士。(略)今、其の著す所を閱するに、初学集・有学集」と記す。本図書の卷頭には

牧齋初學集詩註卷第一

錢後人錢曾遵王箋註

茗南 鈔訂

東海朱朗巖分校

と記し、序文に「錢遵王註、其の牧齋宗伯初学集二十卷、予、序を為し而して之を版行す。既にして復た業を卒う。其の有学集の詩註、而して再び之に序す」とある。錢曾是『国朝詩人徴略』卷5に「錢曾字は遵王、江南常熟の人。文蘆集、判春集、讀書敏求記有り」とある。即ち、錢曾の別集は『文蘆集』と『判春集』であり、錢謙益の『初学集』『有学集』の詩の箋註者なのである。

(牧齋)初學集詩註二〇卷(牧齋)有學集詩註一四卷、[清錢謙益撰]清錢曾箋註 朱梅校と著録すべきであらう。また、3総集類(二)通代(202頁)に、(文臣註)文選とあるが、『六臣註』の誤りであらう。

しかし、これらの取捨も九手の一毛に過ぎず、全体を支配するものでない事は言うまでもない。

尚、この目録は補訂の一冊と索引を加え続刊する予定との事であり、索引は書名のみならず、点校邦儒や出版者の本姓名や堂屋からも検索するような計画があると聞く、一日も早からん事を鶴首しつつ、筆を擱く。(山内記)

一本館一

—国防・軍事に関するもの—

①防衛年鑑 昭和30年版— 防衛年鑑刊行会編
(昭和36年版より所蔵)

わが国と各国の軍事力および軍事状況について総合的に解説してある。

巻頭に特集記事を置き、その年の特記すべき事件や、幾年かにわたる問題が扱われている。年誌では内外の軍事、政治、外交の情勢について記す。国内編では防衛庁と自衛隊の現状、防衛関係予算、海外編では主要国のミサイル、航空機、海軍艦艇の装備状況の概略について記し、1975年版以前では、各安全保障機構の現状に触れている。資料編では、主要法律・条約、主要国防費一覧、兵器諸元表、性能一覧、国防軍事関係図書目録、防衛庁職員名簿が載せてある。ただ1976年版では、職員名簿と図書目録が略されている。巻末に簡単な事項索引がある。(390.59:B)

②World armaments and disarmament; SI PRI yearbook, 1968/69—, Stockholm International Peace Research Institute, Almqvist & Wiksell, 1969—(Annual), (1969/70年版より所蔵)

わが国でも日本平和学会が発足し、近年平和研究への関心がたかまっているが、スウェーデンでは、1966年に議会の財政援助によって、ストックホルム国際平和研究所が設立され、活発な活動を続けている。この年鑑はとくに軍縮に注意を払った、平和と紛争の研究という同研究所の方針に従って編集されている。

記述の体裁は各巻で少しずつ異なるが、最初に年誌があり、各年の軍事上の事件を回顧している。次に軍備の部では、各国の軍事支出、兵器生産、兵器貿易、軍備状況、兵器技術の発展などが扱われている。最後に軍縮の状況に触れ、軍縮に関する外交交渉の展開について述べている。

よく整理された豊富な図表や声明などの文書を各章ごとに付録として豊富につけており、参考図書としての価値をたかめている。

(392.059:S)

めっき技術編集会編

めっき技術便覧 (日刊工業新聞社)

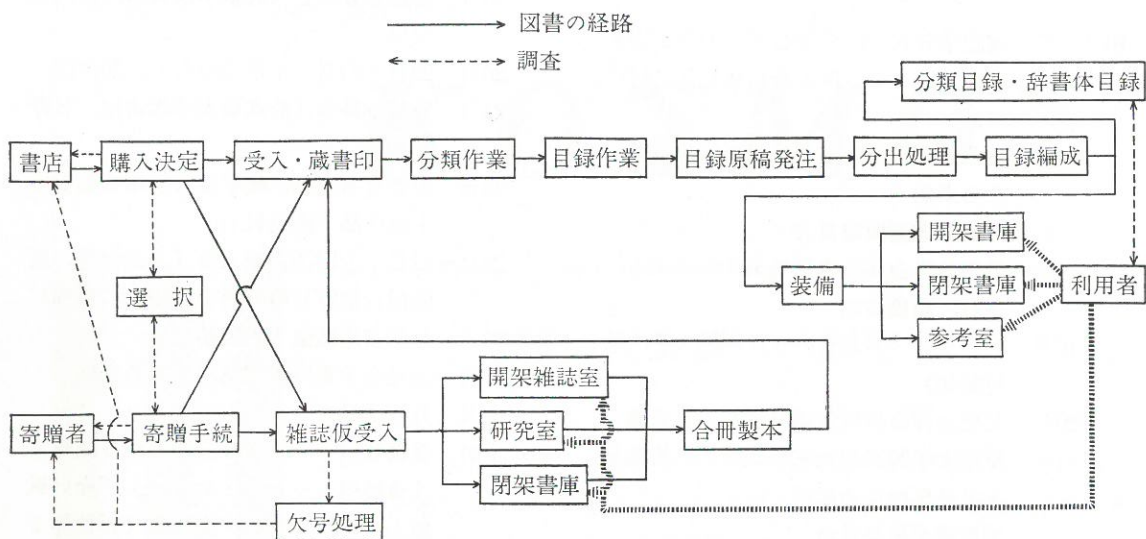
電気めっきの目的は、製品に美観を与えて商品価値を高めること、また耐蝕性あるいは、耐摩耗性を向上させることにあったが、最近では、プリント回路その他の電子部品などに見られるように、これを機能として活用する部分にも多く利用されることになった。今後、科学技術の進歩にともない、その利用分野はますます拡大されていくものと思われる。本書は、電気めっき技術関係の実用的総合図書である。電気化学などの基礎部分は、できるだけめっきに直接関連するもののみにとどめ、管理技術部門および廃水処理関係に十分な枚数をさき、陽極酸化法をも収録した。従来とかくありがちな文献紹介のみにとどまることなく、一貫して豊富な体験をもとにう畜を傾けられているので、すべてがそのまま生かされるものと思われる。(566.77:M-2)

春季休暇中の閲覧

学年末試験も迫り、図書館利用者の方々は勉学に勤しんでいると思います。例年、学年末試験が終了すると、図書館は閉館しております。ところで利用者は、閉館時に閲覧を通常業務としている閲覧係が何をしているのか、疑問を持っているのではないかと思います。

閲覧係は、この期間、蔵書の照合作業を行います。照合作業とは、利用された図書の紛失等の調査をすることで、目録と図書とを一冊づつ照合することで、大変細かい作業です。参考までに昨年度の紛失図書は、開架図書だけで588冊です。又、修理を要する図書は約100冊にのぼります。閲覧係としては、今後利用者が図書貸借のルールを守り、大切に利用することを強く要望します。その他、各種統計の年間集計分析があります。これは、利用者の実態を知るにはかかせない資料です。最後に指定図書に関する作業があります。このように春季休暇中の閉館時には、大切な業務が多く、閲覧係としても利用者サービスの向上を目標に作業をしています。(閲覧係)

図書(雑誌)の購入から閲覧まで



上記の図は当館における図書(雑誌)の受入から閲覧までの経路です。なお詳しくは:

1. 受入では購入、寄贈、交換で送られてくる図書、雑誌資料を記録する。
2. 分類作業では図書の主題にしたがい分類番号を与える。
3. 目録作業では著者、書名、出版事項、対照事項等をカード化する。
4. 目録編成では書架カードと照合の上、図書請求番号を与える。

5. 分類目録とは図書を主題ごとに分け番号を与え、その番号順に並べた目録。
6. 辞書体目録とは著者、書名、件名、訳者並びに参照カードの全部がABC順に並べられている目録。
7. 雑誌は仮受入後一旦開架雑誌室、書庫、研究室に入るが、1-2年後に永年保存するものに限り合冊製本(毎年4, 7, 12月)され、受入・登録後図書と同じ経路で整理される。

冬の日の視聴覚室

朝の光りが清らかに澄んだ波長を奏でる時、図書館の屋上から真白に雪化粧した富士が眺められ、山鳩が日暮れを告げる頃、おごそかな落陽の美が見られます。

さて当室を「音の花園・美の広場」として紹介する内に、今や多くの学生の知るところとなり、利用者も急増して係では嬉しい悲鳴をあげております。

次年度計画としては、教育・学習用のAV資料の充実、とりわけ視覚資料(ビデオ・テープ、スライド、フィルム)と貸出用の学習資料(テープ・レコード)の収集に力を入れたいこと、また「コンサート・催しもの」には視覚と聴覚とを調

和させて教育関連・一般教養に役立つものを徐々に提供したいこと(16mm教養アワー・講演テープアワーの定例化等)、個人利用の時間帯にスライドやビデオ・テープの資料を簡単に利用できる工夫をしたいこと等々があります。皆さんからの<利用の声>をお待ちしております。



日 誌 (51年10月～12月)

- 10月2日 書誌学分科会 (於聖心女子大学図書館
柿衛文庫による俳諧資料展見学, 村田
参加)
- 13日 九州産業大学商学部長河野広氏見学の
ため来館
分館図書選択委員会
- 14日 研修分科会 (於東京農業大学図書館,
高石, 高橋参加)
- 16日 レファレンス分科会 (於創価大学, 崎
村参加)
- 20日 父兄会神奈川県支部見学のため来館
- 21日 甲南大学図書館長三島康雄氏, 他館員
3名見学のため来館
図書館運営委員会
- 22日 逐次刊行物分科会 (於相模女子大学図
書館, 中川参加)
- 23日～24日 16mm 撮影講習会 (文京区主催
於区立第二中学校, 佐久間参加)
- 25日 分類分科会 (於成蹊大学図書館, 日野
参加)
- 27日 図書選択委員会
- 28日 視聴覚室企画, 映写会 (於第3閲覧室
上映作品チャップリン「キッド」「勇
敢」「消防夫」)
- 29日 図書館連絡会
- 30日～31日 16mm 撮影講習会 (於文京区立
第二中学校, 佐久間参加)
- 11月9日～12日 文部省主催昭和51年度大学図
書館講習会 (於東京大学総合図書館, 河
田参加)
- 12日 逐次刊行物分科会 (於東京理科大学若
宮校舎, 栗沢, 中川参加)
- 16日～19日 文部省主催昭和51年度大学図
書館講習会 (於広島大学, 日野参加)
- 17日 白山祭のため休館
図書館連絡会
日本医科大学図書館見学 (米山参加)
- 18日 文部省学術国際局研究助成課係長福本
国太郎氏他1名, 経理・利用・購入状

- 況調査
- 20日 書誌学分科会 (於本学図書館, 山内参
加)
- 20日, 22日, 24日 工学祭のため分館休館
- 24日 分類分科会 (於武蔵大学図書館, 日野
参加)
- 25日 視聴覚室企画, 映写会 (於第3閲覧室
上映作品「鉄道員」)
- 26日～27日 全国図書館大会 (東京会場, 後
藤館長他27日の分科会を中心に参加)
- 29日 分館書庫拡張工事開始
- 12月4日 父兄会千葉県支部見学のため来館
- 8日 分館連絡会
- 9日 視聴覚室企画, 映写会 (於第3閲覧室
「奇跡の人ヘレン・ケラー」「赤い風
船」「ドボルザーク交響曲 (新世界よ
り)」)
- 10日 逐次刊行物分科会 (於早稲田大学, 中
川参加)
- 13日 文部省視学委員 (政治学・法律関係)
視察
- 15日 図書館連絡会
- 16日 研修分科会 (於国際文化会館, 高石,
高橋参加)
- 20日 日韓仏教協議会結成大会, 韓国代表団
団長季南采氏他5名見学のため来館

訂正 前号(Vol. 11, No. 2)の記事を次のように訂正い
たします。

訂 正 箇 所	誤	正
p.7 左側上から11行目	磯村栄一	磯村英一
p.8 左上	民族学関係	民俗学関係
p.10 左側上から15行目	立教大学	文教大学
〃 〃	他2名	他3名
p.10 左側下から8行目	山崎真理子	山崎真里子

